

街道を歩く



今川塚

道路左側交差点より
3軒手前の民家の中に
信長が今川義元の首を
さらしたとされる塚がある。
(ガレージの奥にある)



かわらけの
土器野処刑場跡・瑞正寺(日蓮宗)

寛文5年(1665)2代藩主光友は松原町(中区栄国寺あたり)にあった処刑場をここ土器野に移す。明治まで残る。処刑者の霊を弔うために建てられた「南無妙法蓮華経」と刻まれた大宝塔が瑞正寺境内にある。

問屋記念館

橋の西詰からこの辺りは岩倉、八神への道が交差し交通の要衝で各地から物資が集まっていた。元和8年(1622)橋が架けられると交流が盛んになり市ができ問屋が軒を連ねたという。市は江戸の神田、大阪の天満と並び3大市場と称せられた。

記念館は市場創業者の1人の山田邸跡。



伊藤邸

4間道東側に残る。木造瓦葺一部2階建町屋造り。川伊藤と呼ばれる。”清洲越し”10人衆の1人。米穀商。新田開発の干拓事業に取り組んだ富豪家。現在の家はその分家だが本家を継承。

五条橋

元は清洲城下の五条川に架かっていた
五条橋が城移転の時ここに移される。
本物の擬宝珠は現名古屋城天守閣に保存
されている。現在の橋は昭和13年架け替
えられる。五条橋の由来は城に近いので
御城橋」からとか、尾張守護斯波氏が京都
五条に住んでいたところとかと諸説あり。



清洲の3社のひとつ(上皇、御園、日吉) 美濃
 天文22年(771)創建。祭神、素盞鳴命、大己貴命
 天武22年(1553)信長、織田信友を破り、社殿で火起請
 行つたとの伝え。小牧・長久手の戦いで戦火に遭う。
 家康の制れで安堵。忠告、義直による社殿修理。
 社領20石寄進など崇敬厚かったが城移転で寂れる。



美濃街道：02若宮通り一幅下一押切一枇杷島一新川一清洲

清音寺 (曹洞宗)

治承3年(1179)太政大臣藤原師長公が
平清盛によって井戸田(瑞穂区)に流され
て来た時に村長の娘槐を寵愛した。許さ
れて帰るときに娘に守り本尊薬師如來と
白菊の琵琶を残した。娘は別れを惜しみ
川に身を投じたという。こゝを琵琶島と
名付け、娘の菩提を弔うために寺を建て
たという。寺名は娘の法号からとる。

大木戸跡

城下との境に治安維持のため木戸が設けられた。重要な位置には大木戸が、名古屋城下では3ヶ所、南は橘町(中区)、東は赤塚(東区)、西はここ押切町との境におかれた。1872年全て撤去される。

白山神社

白山神社 文明9年(1477)清洲の斯波義廉が白山権現を勧請。境内にご神木の榎があることから榎権現とも呼ばれた。

夙茂本店

名古屋風は細工の種類と図柄の豊富さで知られる。この辺り一時は20軒ほどの風製造業者があったとい

白山神社

↑ 風茂本店
大城戸跡 城西2

四間道

元禄13年(1700)2月7日午前10時円頓寺あたりから出火、翌日まで燃え1600軒が焼けたといふこの堀川沿いは大商店が密集しており打撃が大きかったので4代藩主吉通は家臣に防火方法を研究させ川沿いの間屋筋の裏を拡張、道幅4間(7m)とし一段と高くして土蔵造りの家を築かせ民家と区別した。今も一部残る。

河村曲全齋宅址

城下では宗春の頃より“茶の湯”が盛んになり、
武士の間では“有楽流”が流行していた。京都から来た茶人達が裕福な町人に茶を広めていた。
曲斎は宗和流の中島正員、また千家流も学び
全曲流を起した。

升半茶店

旧挽茶商榭屋横井半三郎宅江戸後期名古屋で茶事流行。地元で仕入れ販売までの商売確立し藩の承認得て創業。現在も営業。



平成 17 年 09 月 5 日

あきやま

美濃路7宿-②